

大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る

事後調査報告書

(令和7年8月分【埋立中共通調査②】)

【底質(一般項目)、陸域生態系(鳥類)】

国土交通省 近畿地方整備局

大阪港湾局

大阪湾広域臨海環境整備センター

目 次

I 事後調査の概要

1. 調査概要	I - 1
2. 工事の実施状況	I - 4
3. 調査結果の概要	I - 5

II 事後調査結果

1. 底質	II - 1
2. 陸域生態系（鳥類）	II - 2

I 事後調査の概要

1. 調査概要

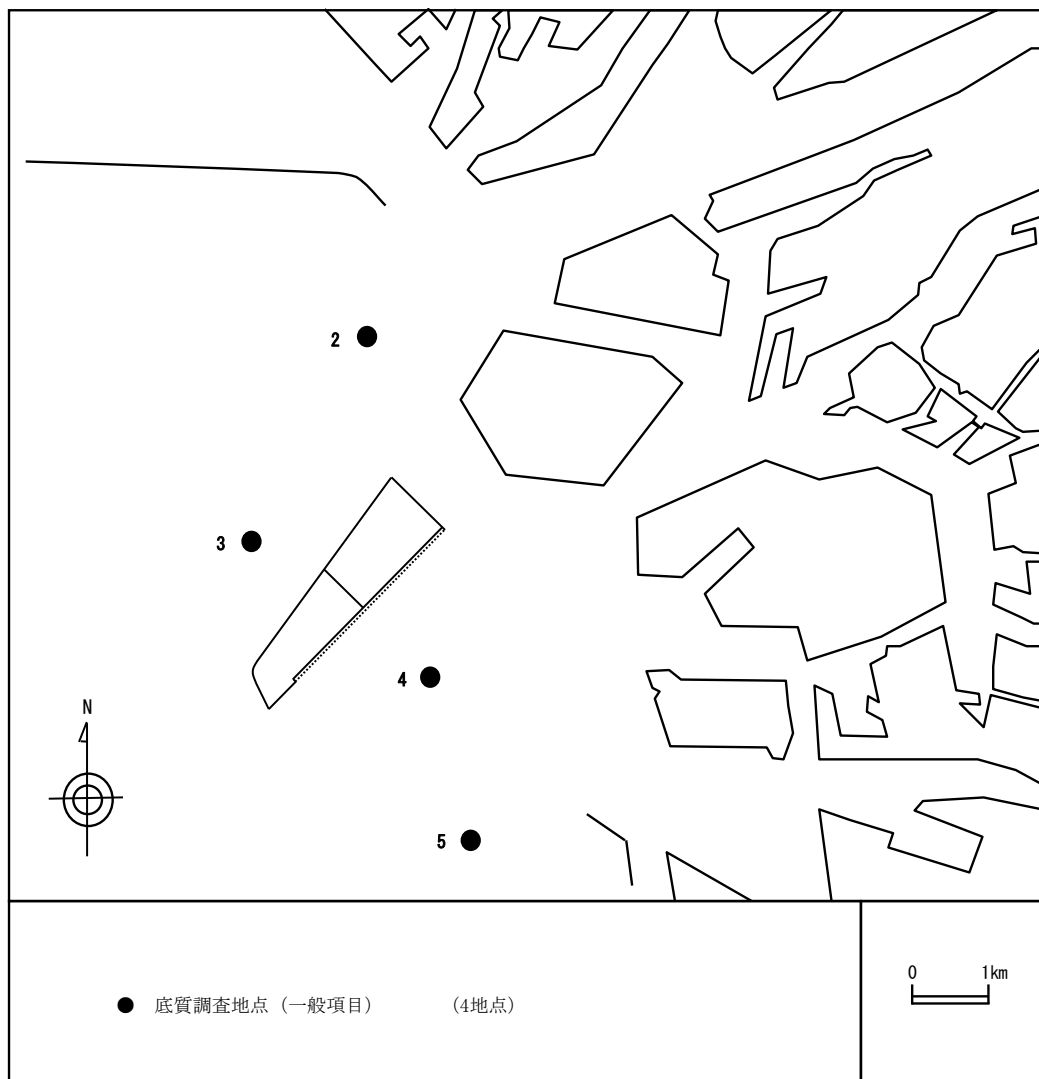
「大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る事後調査計画」に基づく令和7年8月（底質、陸域生態系（鳥類））の事後調査の概要は表－1に、調査地点の位置は図－1に示すとおりである。

表－1(1) 事後調査の概要（埋立地周辺における調査 底質（一般項目））

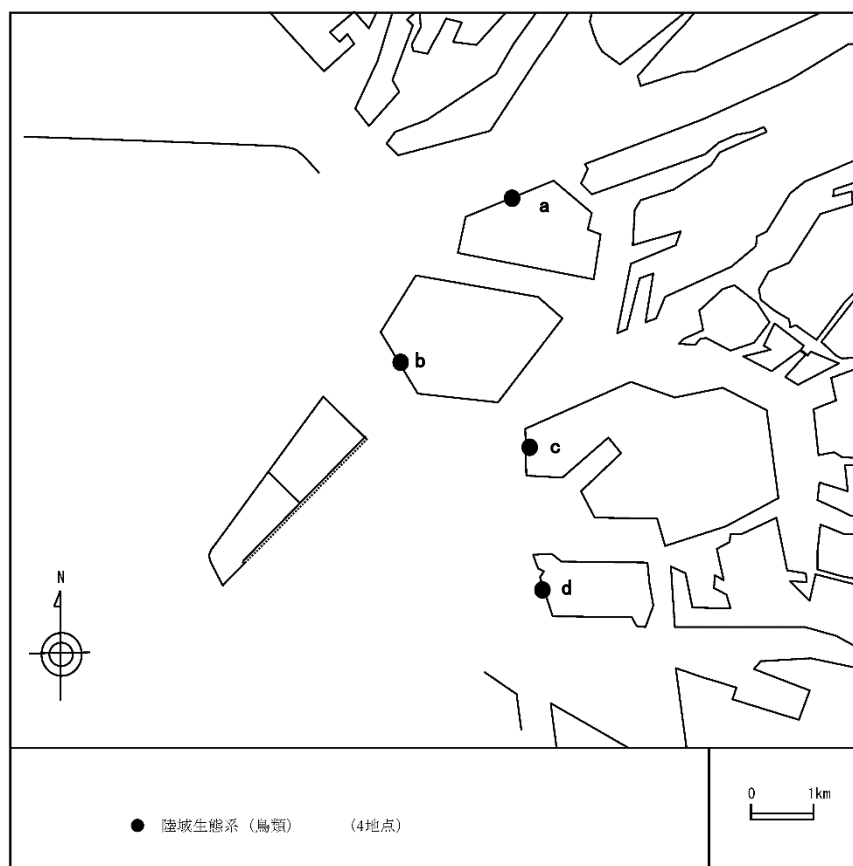
調査項目	調査範囲・地点	調査期間等	調査頻度
粒度組成 含水率 強熱減量 化学的酸素要求量(COD) 硫化物 全窒素(T-N) 全燐(T-P) 酸化還元電位	4点(表層土) 【2, 3, 4, 5】	8月22日	2回／年 (8月、2月)

表－1(2) 事後調査の概要（埋立地周辺における調査 陸域生態系（鳥類））

調査項目	調査地点・範囲	調査期間等	調査頻度
鳥類の生息状況	4点 【a, b, c, d】	8月28日、29日	4回／年(3年毎に実施) (5月、6月、8月、2月)



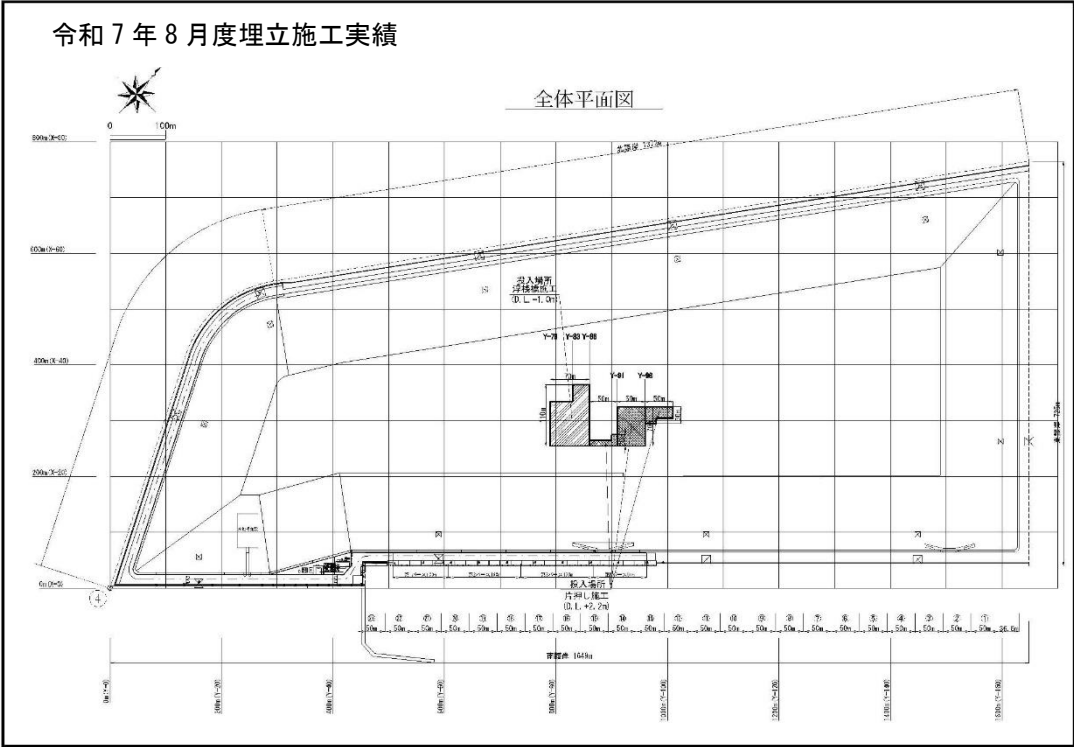
図－1(1) 底質(一般項目)の調査地点



図－ 1 (2) 陸域生態系（鳥類）の調査地点

2. 工事の実施状況

令和 7 年 8 月の工事の工事の実施状況は、図－ 2 に示すとおりである。



埋立量(m ³)	進捗率(%)
8,320,825.7	59.5

埋立容量(計画量) : 13,975,000 m³

図－ 2 工事の実施状況 (大阪沖処分場平面図)

3. 調査結果の概要

埋立地周辺における調査

(1) 底質〔底質様式第1号〕

強熱減量は 9.3～9.7%、化学的酸素要求量(COD)は 23～27mg/g 乾泥、硫化物は 0.3～0.6mg/g 乾泥、全窒素(T-N)は 1.4～2.2mg/g 乾泥、全燐(T-P)は 0.36～0.56mg/g 乾泥の範囲であった。

(2) 陸域生態系（鳥類）〔陸域生態系（鳥類）様式第1～3号（埋立地関連）〕

鳥類の出現種類数は、4 地点合計で 5 目 13 科 20 種であった。

調査地点別の出現個体数についてみると、調査地点 b が最も多く 111 羽であり、次いで調査地点 d の 56 羽、調査地点 c の 39 羽、調査地点 a の 15 羽の順であった。

調査地点別の出現種類数についてみると、調査地点 c が最も多く 12 種であり、次いで調査地点 b と調査地点 d の 9 種、調査地点 a の 7 種の順であった。

個体数が最も多かった調査地点 b における主要な出現種は、ツバメ（スズメ目ツバメ科）、カワウ（カツオドリ目ウ科）、ウミネコ（チドリ目カモメ科）、ハクセキレイ（スズメ目セキレイ科）、ミサゴ（タカ目ミサゴ科）、ハシブトガラス（スズメ目カラス科）、アオサギ（ペリカン目サギ科）、トビ（タカ目タカ科）、イソヒヨドリ（スズメ目ヒタキ科）であった。

事業実施前（平成 9 年 8 月：調査地点の位置は、本年度調査の調査地点と同じ）に実施した 8 月の結果は、4 地点合計で 8 目 18 科 35 種であり、本年度は事業実施前と比べて種数が少なくなっていた。

事業実施前調査結果を表-2 に示す。

陸域生態系（鳥類）表-2 事業実施前調査結果

区 分	平成9年8月	平成10年2月	平成10年5月	平成10年6月
出現状況				
目	8	8	10	9
科	18	17	21	19
種	35	37	37	26
主な出現種 (個体数、 組成比率)	ウミネコ (35.4%) トウネン (27.2%) カワウ (8.8%) カルガモ (7.1%) スズメ (4.5%)	ヒドリガモ (18.1%) ホシハジロ (11.0%) キンクロハジロ (7.6%) カワウ (6.1%) スズメ (5.0%)	トウネン (32.2%) コアジサシ (8.4%) シロチドリ (7.3%) アジサシ (4.5%) ハシブトガラス (4.3%)	ムクドリ (42.6%) スズメ (12.3%) ツバメ (12.3%) コアジサシ (9.6%) ドバト (6.5%)

調査地点		a	b	c	d	合計
平成 9 年 8 月	種類数	16	7	25	10	35
	個体数	103	524	281	91	999
平成10年 2 月	種類数	13	17	27	10	37
	個体数	321	456	964	107	1,848
平成10年5月	種類数	19	16	27	17	37
	個体数	73	106	517	126	822
平成10年6月	種類数	15	10	19	15	26
	個体数	130	138	175	109	552
年間	種類数	32	32	47	27	60
	個体数	627	1,224	1,937	433	4,221

前回調査（令和 4 年 8 月：調査地点の位置は、本年度調査の調査地点と同じ）と比較すると、種数は令和 4 年度が 4 地点合計で 30 種、令和 7 年度が 4 地点合計で 20 種であり、令和 7 年度が 10 種少なくなっていたが、個体数は令和 4 年度が 4 地点合計で 213 羽、令和 7 年度が 4 地点合計で 221 羽であり、大きな差は認められなかった。令和 7 年度において、種数はやや少なくなっているものの、ツバメ、ソリハシシギ等の渡り鳥、カワウ、ウミネコ、サギ類等の留鳥も多く確認されているため、種数の変化は年変動の範囲内であると考えられる。令和 4 年 6 月の調査結果を表-3 に示す。

表-3 陸域生態系（鳥類）調査結果（主な出現種の構成割合）[令和 4 年 8 月分]

調査日：令和 4 年 8 月 28 日、29 日

区分		地点別出現個体数				
		a	b	c	d	計
出現 状況	目	5	8	8	6	8
	科	9	15	13	11	18
	種	10	24	18	11	30
出現個体数		27	86	61	39	213
主な出現種 (個体数、 組成比率)	カワウ (5 羽、18.5%)	トウネン (28 羽、32.6%)	カワウ (10 羽、16.4%)	ウミネコ (17 羽、43.6%)	トウネン (28 羽、13.1%)	
	スズメ (5 羽、18.5%)	ツバメ (16 羽、18.6%)	イソシギ (7 羽、11.5%)	カワウ (8 羽、20.5%)	カワウ (24 羽、11.3%)	
	ハシブトガラス (4 羽、14.8%)	シロチドリ (7 羽、8.1%)	カルガモ (6 羽、9.8%)	カワラヒワ (3 羽、7.7%)	ウミネコ (19 羽、8.9%)	
	キジバト (3 羽、11.1%)	メダイチドリ (6 羽、7.0%)	スズメ (5 羽、8.2%)	スズメ (3 羽、7.7%)	ツバメ (16 羽、7.5%)	
	アオサギ (2 羽、7.4%)	ハマシギ (4 羽、4.7%)	ダイサギ (4 羽、6.6%)	ハシブトガラス (2 羽、5.1%)	スズメ (13 羽、6.1%)	
	イソシギ (2 羽、7.4%)		ソリハシシギ (4 羽、6.6%)			
	ヒヨドリ (2 羽、7.4%)		ハシブトガラス (4 羽、6.6%)			
	カワラヒワ (2 羽、7.4%)					

注) 表中の主な出現種は、地点別の優占種上位 5 種を示した。

Ⅱ 事後調查結果

底質様式第 1 号

底質調査結果（一般項目）〔令和 7 年 8 月分〕

調査日：令和7年8月22日

調査点		2	3	4	5	最小値	～	最大値	平均値
項目									
採泥時刻		12:53	12:34	11:58	11:36	—			—
粒度 組成 〔%〕	粗礫 (19mm以上)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	～	0.0	0.0
	中礫 (4.75～19mm)	0.0	0.0	0.6	0.1	0.0	～	0.6	0.2
	細礫 (2.00～4.75mm)	0.0	0.2	0.2	0.1	0.0	～	0.2	0.1
	粗砂 (0.850～2.00mm)	0.0	0.4	0.2	0.2	0.0	～	0.4	0.2
	中砂 (0.250～0.850mm)	0.4	0.6	1.2	0.5	0.4	～	1.2	0.7
	細砂 (0.075～0.250mm)	0.6	1.0	1.4	0.4	0.4	～	1.4	0.9
	シルト (0.005～0.075mm)	87.4	82.2	79.7	79.9	79.7	～	87.4	82.3
	粘土 (0.005mm以下)	11.6	15.6	16.7	18.8	11.6	～	18.8	15.7
含水率〔%〕		66	68	67	66	66	～	68	67
強熱減量〔%〕		9.3	9.7	9.6	9.3	9.3	～	9.7	9.5
化学的酸素要求量（COD） 〔mg/g乾泥〕		26	25	27	23	23	～	27	25
硫化物〔mg/g乾泥〕		0.6	0.5	0.3	0.5	0.3	～	0.6	0.5
全窒素（T-N）〔mg/g乾泥〕		1.7	1.4	2.2	1.7	1.4	～	2.2	1.8
全磷（T-P）〔mg/g乾泥〕		0.36	0.47	0.56	0.52	0.36	～	0.56	0.48
酸化還元電位〔mV〕		-330	-340	-340	-330	-340	～	-330	-335

特記事項

陸域生態系（鳥類）様式第1号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（種別出現状況）〔令和7年8月分〕

調査日：令和7年8月28日、29日

No.	目名	科名	種名	渡り 区分	地点別出現個体数				
					a	b	c	d	計
1	カツオドリ目	ウ科	カワウ	留鳥	4	2	3	15	24
2	ペリカン目	サギ科	アオサギ	留鳥	1	1	4	3	9
3			ダイサギ	留鳥	2		10		12
4			コサギ	留鳥	1				1
5	チドリ目	シギ科	チュウシャクシギ	旅鳥			1		1
6			アカアシシギ	旅鳥			3		3
7			キアシシギ	旅鳥			1		1
8			ソリハシシギ	旅鳥			9		9
9			イソシギ	留鳥	2		1		3
10		カモメ科	ウミネコ	留鳥		2		23	25
11	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	留鳥	2	1	1	1	5
12		タカ科	トビ	留鳥		1		2	3
13	スズメ目	カラス科	ハシボソガラス	留鳥				8	8
14			ハシブトガラス	留鳥	3	1	2	2	8
15		ツバメ科	ツバメ	夏鳥		100			100
16		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	留鳥			3		3
17		セッカ科	セッカ	留鳥			1		1
18		ヒタキ科	イソヒヨドリ	留鳥		1			1
19		スズメ科	スズメ	留鳥				1	1
20		セキレイ科	ハクセキレイ	留鳥		2		1	3
合計（5目13科20種）				目数	5	5	5	5	5
				科数	5	9	7	8	13
				種類数	7	9	12	9	20
				個体数	15	111	39	56	221

注）1. 分類及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リストー令和6年度生物リスト」（国土交通省 2024）に従った。

2. 渡りの区分は、「大阪府鳥類目録2001」（（財）日本野鳥の会大阪支部、2001）に従った。

陸域生態系（鳥類）様式第2号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（主な出現種の構成割合）〔令和7年8月分〕

調査日：令和7年8月28日、29日

区分		地点別出現数				
		a	b	c	d	計
出現状況	目	5	5	5	5	5
	科	5	9	7	8	13
	種	7	9	12	9	20
出現個体数		15	111	39	56	221
主な出現種 (個体数、組成比率)		カワウ (4羽、26.7%)	ツバメ (100羽、90.1%)	ダイサギ (10羽、25.6%)	ウミネコ (23羽、41.1%)	ツバメ (100羽、45.2%)
		ハシブトガラス (3羽、20%)	カワウ (2羽、1.8%)	ソリハシシギ (9羽、23.1%)	カワウ (15羽、26.8%)	ウミネコ (25羽、11.3%)
		ダイサギ (2羽、13.3%)	ウミネコ (2羽、1.8%)	アオサギ (4羽、10.3%)	ハシボソガラス (8羽、14.3%)	カワウ (24羽、10.9%)
		イソシギ (2羽、13.3%)	ハクセキレイ (2羽、1.8%)	カワウ (3羽、7.7%)	アオサギ (3羽、5.4%)	ダイサギ (12羽、5.4%)
		ミサゴ (2羽、13.3%)	ミサゴ (1羽、0.9%)	アカアシシギ (3羽、7.7%)	トビ (2羽、3.6%)	アオサギ (9羽、4.1%)
			ハシブトガラス (1羽、0.9%)	ヒヨドリ (3羽、7.7%)	ハシブトガラス (2羽、3.6%)	ソリハシシギ (9羽、4.1%)
			アオサギ (1羽、0.9%)			
			トビ (1羽、0.9%)			
			イソヒヨドリ (1羽、0.9%)			

注) 表中の主な出現種は、地点別の優占種上位5種を示した。

陸域生態系（鳥類）様式第3号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（科別出現状況）〔令和7年8月分〕

調査日：令和7年8月28日、29日

調査地点 a				調査地点 b			
順位	科名	種数	優占率 (個体数%)	順位	科名	種数	優占率 (個体数%)
1	ウ科	1	26.7%	1	ツバメ科	1	90.1%
1	サギ科	3	26.7%	2	ウ科	1	1.8%
3	カラス科	1	20.0%	2	カモメ科	1	1.8%
4	シギ科	1	13.3%	2	セキレイ科	1	1.8%
4	ミサゴ科	1	13.3%	5	サギ科	1	0.9%
				5	ミサゴ科	1	0.9%
				5	タカ科	1	0.9%
				5	カラス科	1	0.9%
				5	ヒタキ科	1	0.9%

調査地点 c				調査地点 d			
順位	科名	種数	優占率 (個体数%)	順位	科名	種数	優占率 (個体数%)
1	シギ科	5	38.5%	1	カモメ科	1	41.1%
2	サギ科	2	35.9%	2	ウ科	1	26.8%
3	ウ科	1	7.7%	3	カラス科	2	17.9%
3	ヒヨドリ科	1	7.7%	4	サギ科	1	5.4%
5	カラス科	1	5.1%	5	タカ科	1	3.6%
6	ミサゴ科	1	2.6%	6	ミサゴ科	1	1.8%
6	セッカ科	1	2.6%	6	スズメ科	1	1.8%
				6	セキレイ科	1	1.8%

注) 優占率は四捨五入した値を表示しており、合計は100.0%にならないことがある。